

全国学校給食週間レポート



学校給食は、明治22年に山形県鶴岡市の小学校で行われたのが最初とされています。この時の献立は、「おにぎり」と「焼き魚」「漬物」だったそうです。第二次世界大戦中は一時中断されましたが、戦後、ユニセフなどの救援物資をもとに再開。昭和29年には学校給食法が制定され、現在では学校における食育の中心的な役割を担っています。

全国学校給食週間(1月24日～30日)は、児童生徒はもとより教職員・保護者・地域住民のみなさんに、学校給食の意義や役割について理解と関心を深めていただこうと、昭和26年から行われています。

とっとりふるさと探検 ～おいしさ発見！学校給食～

鳥取市の全国学校給食週間のテーマです。期間中は各地域の産物や郷土料理などを取り入れた地域の特色ある献立のほか、各学校では、生産者をはじめとする地域の方や調理員との交流給食会などさまざまな行事が行われました。

また、全国学校給食週間に合わせて、栄養教諭・学校栄養職員が学校給食カレンダーを作成し、小中学校全部の家庭に配布しました。このカレンダーには、毎月19日食育の日「とっとりふるさと探検日」に登場した市内各地域の食材を使用した給食レシピを掲載しています。

給食感謝集会(瑞穂小学校)

瑞穂小学校4・5年生のクラスでは、瑞穂特産のしょうがなどの生産者の方と保護者の方と児童と一緒に給食を食べました。その後、健康委員会児童の進行により全校児童を対象とした給食感謝集会が行われ、生産者、調理員、運転手の方それぞれの思いについてお話を聞きました。

健康委員会児童は、最後に、「給食が自分たちのところに届くまでには、いろんな方が関わっておられることを知り、感謝の気持ちをこめて『いただきます』を言いたいです。」と感想を述べました。

(1月23日 瑞穂小学校にて)



ホンモロコのピーナッツがらめ献立(散岐小学校)



河原町の散岐小学校では、全校集会が開かれました。河原学校給食センター池田学校栄養職員と給食の歴史について、調理員とは調理の仕事について学習しました。給食時には、1年生とセンター職員との交流給食を行いました。その日の献立には、河原町の休耕田で育てられたホンモロコを使用した「ホンモロコのピーナッツがらめ」があり、初めての給食献立でしたが、みんながおいしいおいしいと残さず食べていました。

(1月24日 散岐小学校にて)

青谷学校給食グループ生産者のみなさんと交流給食 (青谷小学校)

青谷町の青谷小学校では、青谷学校給食センターに野菜を提供していただいている学校給食生産者グループの会員10名をお迎えして、3年生との交流給食がおこなわれました。この日は、青谷中学校の生徒が考えたおすすめ献立の「とんかつ」「野菜カレー」などを食べながら、作っている野菜の話の聞いたりして楽しく過ごしました。最後は、生産者一人一人にお礼の言葉と感謝状を贈りました。

(1月25日 青谷小学校にて)



にんじん生産者のみなさんと交流給食 (末恒小学校)



末恒小学校4年生と、学校給食用に計画栽培してくださっている地元のにんじん生産者の方による交流給食会を行いました。4年2組のクラスでは、児童が事前に考えていたにんじんにんじんの生産に関する質問を行い、生産者の方は、児童の素直で率直な質問に身振り手振りわかりやすく答えていました。「細長く丸いにんじんはどうしたらできますか。」との質問に、「砂地の良さを生かすこと。土壌づくりをきちんとしないと短いにんじんができる。それから肥料をいつやるか、にんじんの状態をみながら判断する。」と力説されている姿が印象的でした。

(1月28日 末恒小学校にて)

ようこそ給食 (米里小学校)

米里小学校では、地域の方をお迎えして「ようこそ給食」がおこなわれました。地域の皆さんにはそれぞれ1年生から6年生までの各教室に分かれいただき、お米づくりや日頃より近所でお世話になっている方などに子供のころの話を伺ったりしながら一緒に給食を食べました。給食の後には、一緒にけん玉をしたりして楽しいひと時を過ごしました。

(1月29日 米里小学校にて)



河原学校給食グループのみなさんとの交流給食(散岐小学校)



地元河原学校給食グループ12名と散岐小学校児童による交流給食会を行いました。生産者の方は、各教室に2名ずつ分かれて全学年に入りました。3年生のクラスでは、はくさいやだいこんなど作ってくださっている生産者の方が、児童からの質問に、丁寧にわかりやすく答えてくださいました。

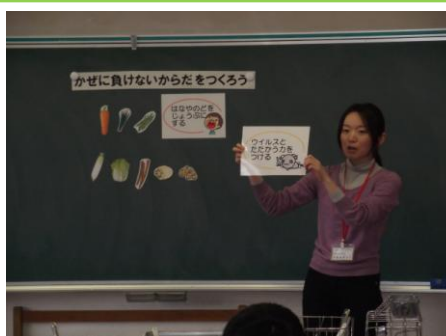
生産者の方と一緒に食べながら思いや苦労を聞くことにより、地元農業への理解を深めたり感謝していただくことの大切さを学んだりする機会となりました。また、生産者の方も、これからもおいしい野菜を作りたいと抱負を語ってくださいました。

(1月29日 散岐小学校にて)

学校栄養職員・調理員招待給食(宮ノ下小学校)

宮ノ下小学校1・2年生のクラスでは、学校栄養職員と調理員が各クラスに招待され、児童と一緒に給食を食べました。学校栄養職員のクラスでは、冬の野菜、今日の献立に入っている野菜を児童に尋ねたりして、学校給食について児童にわかりやすく説明していました。また、調理員のクラスでは、皆が輪になって給食を食べ、児童から調理員へ感謝状が渡されました。今日の献立の中では、いわしの梅煮とかに汁が好きな児童が多く、調理員も喜んでおられ、終始和やかに

(1月28日 宮ノ下小学校にて)



リクエスト献立 (佐治中学校)



佐治中学校3年生のクラスでは、所長・学校栄養職員・調理員及び教育委員会職員が招待され、グループに分かれて生徒と一緒に給食を食べました。学校栄養職員から学校給食の成り立ちについて説明を受け、理解している様子でした。生徒は、「鶏肉のから揚げは、カレーと並んで人気メニューの一品であり、好き嫌いもあまりない。」と話していました。中学卒業も近くなり、給食を食べる機会も残り少なくなることの話もあり、佐治産食材がたっぷり入った給食の良さを再確認できた交流給食でした。

(1月29日 佐治中学校にて)

JA職員と交流給食 (津ノ井小学校)

津ノ井小学校1学年では、学校栄養職員による食指導(にんじんクイズ)が行われ、にんじんの栄養・給食に使用する本数など、答えが合う度に児童が嬉しそうに歓声をあげていました。その後、学校栄養職員・教育委員会が各クラスに招待され、児童と一緒に給食を食べました。何人かの児童に好きな献立について尋ねたところ、カレーが大人気で、にんじんが入っているシチューも好きな様子で、食べ残しはあまりない感じでした。JA職員からにんじんについての説明があり、児童は興味深く聞き入っていました。

(1月30日 津ノ井小学校にて)



しょうからうどん献立(気高中学校)



気高中学校では、鳥取市西商工会青年部が商品開発された地元産のしょうがを練りこんだ『しょうからうどん』を使用した豚汁うどんが提供されました。茹でたてのうどんを味わってほしいとの青年部の方の思いから、ランチルームに大釜を二つ持ち込み、一人分ずつお椀に入れ、給食当番が豚汁をかけていただきました。青年部の方から「地元のもの食べる喜びを感じてほしい。」との思いを生徒に伝え、生徒一人一人の表情から五感で食べることのすばらしさを感じました。

(1月30日 気高中学校ランチルームにて)

学校給食センター職員交流給食(鹿野小学校)

鹿野小学校では、鹿野学校給食センター所長、学校栄養職員、調理員と児童による交流給食会を実施しました。6年生の教室では、土井所長から学校給食に鹿野の食材がたくさん使われていることや外国産の食材の使用は控えているとの説明にとっても興味深く聞き入っていました。

鹿野小学校では、日ごろから鹿野小ゆるキャラ作成や米作りなどを通して地域の文化や歴史について学んでおり、交流給食会を通して、学校給食が生産者の方をはじめ地域の方々に支えられて届けられることを学び、児童一人一人のいきいきとした表情から、鹿野のまちを誇りに思う様子がうかがえました。

(2月1日 鹿野小学校にて)



2013年2月14日登録